様式2

平成28年2月24日

平成27年度　評価計画及び自己評価

（計画・中間・最終）

呉中央中学校区　校番　18　　学校名　呉中央小学校

a　学校教育目標	「自分」を育てる	b　経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉（学校の使命） 小中一貫教育を通して，生涯を自ら豊かに学び続け，自他のいのちを大切にして生ききる根っこを育てる。 〈ビジョン〉（将来の学校像） 「楽しい学校・安心できる学校・やりがいのある学校」

c　中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今後の重点	小中一貫教育研究実践15年の成果として，学習規律の確立と基礎・基本の定着が見られる。また，小中教員の緊密な連携の成果として，「目にうつくしく　耳にここちよく　心にあたたかく」を校風とした学校づくりが育まれつつある。今年度は，「特別の教科　道徳」の充実に努め，さらに新たな学園文化の創造に努める。

評価計画（中間経営目標を設定してから　①　・　２　・　３　年目）						自己評価					
						11月			2月		
重点	d　中期（3年間）経営目標	e　短期（今年度）経営目標	f　目標達成のための方策（こんなことをして達成します）	g　指標（効果を見とる目安）	h　目標値	I　達成値	j　達成度	k　評価	I　達成値	j　達成度	k　評価
★★★	㊐ 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	・「わかる・できる授業」を工夫し，基礎・基本の定着と活用する力の向上を図る。	・個に応じた指導や主体的・能動的な学習，活用型学習，乗り入れ授業の実施等，指導法の工夫改善を行う。	・児童の授業満足度	90％	91.6％	101.7	A	92.6％	102.8	A
				・学力調査（各実施機関の平均を5ポイント上回る）	90％	66.7％	74.1	C	66.7％	74.1	C
			・「まなびのすすめ」を有効に活用し，授業につながる家庭学習に取り組ませる。	・各学年の家庭学習目標時間の達成率	90％	86.6％	96.2	B	97.6％	108.4	A
★★	㊐ 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	・体験活動等を生かした道徳教育の充実を図り，豊かな心を育む。	・職場訪問や異学年交流等，「夢チャレンジの時間」を充実させ，自尊感情の向上を図る。	・児童の自尊感情に係る意識調査	85％	86.7％	102.0	A	86.3％	101.5	A
			・道徳教育の改善・充実に努め，道徳の時間の授業研究を進め，ＴＴによる指導等指導方法の工夫改善に努める。	・道徳好きな児童の割合	85％	89.0％	104.7	A	91.1％	107.2	A
★	㊐ 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	・生活リズムの確立と運動の日常化に取り組み，体力・運動能力の向上を図る。	・生活振り返りカードを活用し，家庭を巻き込んだ取組を進める。	・「早寝，早起き，朝ごはん」の定着状況	90％	91.0％	101.1	A	90.4％	100.4	A
			・「５０ｍ走・ボール投げ・長座体前屈」の重点種目に日常的に取り組む。	・新体力テスト３種目の県平均達成率	65％	44.0％	67.7	C	55.5％	85.4	B

様式3

平成28年2月24日

平成27年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間・(最終) ）

呉中央中学校区　校番　18　　学校名　呉中央小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	生(貫)きる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	「わかる・できる授業」を工夫し、基礎・基本の定着と活用する力の向上を図る。	○児童の授業満足度 （目標値90%→達成値92．6%） 「授業が楽しい」91．0% 「よく分かる」94．1% ・児童が主体的な学びの楽しさを味わうことができるよう1年間を通して日々の授業改善に取り組んだ。さらに，呉型カリキュラムの研修で学んだことを各学年で発達段階に応じて実施し，基礎的な学習の定着に努めた。	・基礎的な内容に加え，活用力を伸ばす学習に継続的に取り組む。また，学年毎に身につけなければならない内容について改めて見直していく。 ・児童が意欲を持ち目を輝かせて学習するアクティブラーニングの取組についても，来年度，学校全体として何をするか研修を積み重ねていく。
			○学力調査（全国4月，基礎・基本6月） （各実施機関の平均を5ポイント上回る） （目標値90%→達成値66．7%） ～国語の課題～ ・複数の資料から必要な情報を読み取り，それらを関係付けて文章を書くこと　等 ～算数の課題～ ・平行四辺形の作図の時に，その図形のどの性質を利用したものなのか理解していないこと　等 ※「標準学力テスト」による調査結果 国語科　全国平均より0.47ポイント上回った 算数科　全国平均より1.40ポイント下回った	・複数の資料から情報を得て，自分の考えをまとめて書く活動を設定する。 ・作図をするときに，様々な方法を取り入れるとともに，手順などの技能面だけでなく，その裏付けとなる図形の性質も合わせて指導する。 ・すべての教科で習得した知識や技能を表現するだけでなく，それらを活用して問題解決できるように，ペア，小グループで話し合う活動や説明し合う活動を取り入れる。 ※算数科において課題が多くみられる。分析した課題を次年度に引継ぎ，課題解決に向けての取組を継続していく。
			○各学年の家庭学習目標時間の達成率 （目標値90%→達成値97．6%） ・宿題を毎日することはできているが，内容については，個人差が大きい。保護者アンケートでは，家庭学習に対し肯定的な回答がやや少ない。児童と保護者のこの差は，児童が集中して学習しているのかどうかの意識の差であると考えられる。	・一人一人に確実に力を付けたい内容については，家庭学習で取り組むことができるようにし，自主学習については，よい内容を掲示するなど児童の意欲を喚起できるような取組を考えていく。 ・家庭学習の手引きを参考にしながら，集中して家庭学習することについての指導を行う。
★★	生(貫)きる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	体験活動等を生かした道徳教育の充実を図り、豊かな心を育む。	○自尊感情に係る意識調査 （目標値85%→達成値86．3%） 「自分のよいところがわかる」88．9% 「自分が好き」83．4% ・職場訪問や異学年交流を計画的に実施することができた。	・今後も，自分や友だちの頑張り，よさに気付かせる場の設定をしたり，ワークシートの工夫をしたりする。 ・教師が肯定的評価の言葉がけをする。 ・体験活動の時期に無理がないか年間計画を見直し，ゆとりをもって活動を行えるようにしていく。
			○道徳好きな児童の割合 （目標値85%→91．1%） ・94．5%の児童が「道徳はためになる」と感じている。 ・道徳の時間と日常生活を結びつけて考えることができるようになった。 ・ワークシートに考えを書いたり，みんなの前で発表したりすることにより，自分の思いを表現することができた。	・引き続き，しっかり考えさせることのできる授業となるよう発問を工夫していく。 ・9年間を見通した目標をもち，小中合同の研修をさらに充実させることで，確実に豊かな心を育んでいくようにする。
★	生(貫)きる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	生活リズムの確立と運動の日常化に取り組み、体力・運動能力の向上を図る。	○「早寝，早起き，朝ごはん」の定着 （目標値90%→達成値90．4%） ・生活振り返りカードから「早寝・早起き」に課題がある児童に対して，個別指導を行い，懇談時に保護者との連携を行った。	・食育劇，栄養教諭・養護教諭による指導，及び「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンを継続し，気になる児童に対しては担任と養護教諭が連携し，個別指導を繰り返し行う。 ・キャンペーン以外の期間も各学年での「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を繰り返し，気になる児童への個別の声掛け，また保護者への取組を積極的に行うようにする。
			○新体力テスト3種目の県平均達成率 （目標値65%→達成値55．5%） ・課題種目3種目で県平均に達していたのは，延べ946名で，55．5%であった。 ・ソフトボール投げの向上をめざして,全校でのグーパー運動,また，とくに課題がある児童にはソフトボール投げ教室を実施した。しかし，2回目のスポーツテストの実施については，時間・場所・意識の3点に課題があった。	・来年度は「50M走」「ソフトボール投げ」「握力」の3種目に重点を置く。とくに今年度に引く続き，「ソフトボール投げ」の記録の向上をめざし，今年度に引き続きグーパー運動等に取組む。 ・教職員研修を行い，児童の体力向上に対する意識を高め，教科体育の充実，とくに授業のスタートにサーキットを行う等工夫して，運動量の確保に取組む。 ・児童に対して，目標を明確に持たせ，意識を高め，体力向上をめざすように指導していく。

様式4

平成28年　3月　7日

平成27年度　　学校関係者評価及び改善策

（　中間・(最終)）　　呉中央中学校区　校番　18　学校名　呉中央小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	・適切である。 ・過去の実績に基づく目標設定であり，目標，指標の設定は適切である。
目標達成のための方策の適切さ	A	・適切である。 ・方策も多くの項目にとらわれず，的を絞った点がよいと思われる。 ・小中一貫校の良さが現れている。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	・適切である。 ・結果についても客観的に数値で表しているので，良好である。
今後の改善策（案）の適切さ	A	・適切である。 ・「しなやかな体の育成」では，児童への個別指導と保護者との連携がポイントになると思われる。担任と養護教諭，栄養教諭との連携により，児童と保護者をその気にさせる取組を今後も大切にするとよい。 ・勉強は詰め込むだけではすぐに忘れてしまうので，改善策（案）にあるよう，基礎的な内容を活用し，楽しんで学ぶ授業を作っていってほしい。 ・生徒指導は家庭とさらに連携を図り行っていくとよい。
その他	・全体としてバランスのとれた素晴らしい教育実践が行われていると感じる。伝統を大切にしながら，時代時代の課題に果敢に取り組んでいる。うまくいっていると感じる時ほど，表立って見えにくい一人の児童，一人の保護者に対して，教職員が，さらに寄り添う気持ちを大切にしていくと，「行くのが楽しみな学校」にさらに近付くと思う。 ・学習面のみではなく，本当の意味で『賢い子（学びが知恵につながった，判断力を持った子）』を育てていってほしい。 ・積極的に「登校したい」という思いが，９年間でどのように変化するのかという数字があれば，学習や友人関係等の「つまずき」が「学年軸」で見えてくるのではないだろうか。 ・９年間を通じて思考を醸成させるような体系（小学校においては，論理性を楽しく身に付けるためのカリキュラム）を組まれることを望む。 ・集団としての結果の分析を丁寧に行っている。さらに，個別の分析をできる範囲で進めるとよいと思う。５年時・６年時・８年時・９年時というように，時間の経緯での個別の変化や，学力と生活や意識の関係などを個別に見てみると「生ききる根っこを育てる」上での成果や課題が見えてくるのではないだろうか。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・すべての教科において，基礎的な内容に加え，活用力を伸ばす学習に継続的に取り組んだり，習得した知識や技能を用いてペア，小グループで話し合う活動や説明し合う活動を取り入れたりして，学びを知恵につなげ，児童の判断力を高めていくようにする。 ・分析した学習の課題を次年度に引継ぎ，課題解決に向けての取組を継続していく。 ・教師が肯定的評価の言葉がけをさらに行うことで，児童の自尊感情を高めるとともに，「意欲・やる気」を引き出していく。 ・学力，自尊感情，体力の向上のため，今後も，本校の教育目標『「自分」を育てる』の具現化に向けて，保護者との連携をさらに図りながら，取組を充実させていく。